



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行・編集 責任者：

般若慎一郎

高岡市平和都市宣言10周年記念～特別展「戦時下の暮らし」

高岡市立博物館で首題の展示を見て気づいたことがありました。戦争関連の色々な展示品の中に、陶製の釜、湯たんぽ、水筒、天秤ばかりの分銅、おろし金、九谷焼二宮金次郎像のカタログがありました。

そういうものの存在は知っていたけど、色々な材料で作られているぐらいにしか思っていなかったのですが、実は供出による金属不足の戦時下に金属の代替品として作られたのですね。へ～え！と思いましたが、70才にもなってようやく気づくことがあるものですね。

ちなみに展示は10月10日まで、入場無料で開催されています。



陶製の分銅

にぎやかに 恒例の納涼祭

8月20日 恒例の納涼祭が、いつもの八番街で開催されました。今年は小さい子供達のカラオケが素晴らしいと感じました。ビンゴゲームでは加藤相談役の奥様が1等賞をゲットされたようですが、おめでとうございます。また近いうちに別のいい事があるかもですね。



いて伝統的建築物として認定されたので、今後は国の助成金も受けて修理と改造の工事に向か



います。しかしながら申請手続きなどを経て、工事は早

くても来年度になる見込みです。

鋳物資料館が展示代え

鋳物資料館では第1展示室を展示代えしました。昨年8月にスタートした企画展「魂の伝承」シリーズ第4期で「仕上げ技法」がテーマで、伝統工芸師の京田政春さん・内免悌次朗さんらの作品が展示されています。

他にタガネで加工した銅板を順に並べた仕上げ工程の説明や、模様付けの量産に使った鋳物種型なども展示されています。12月5日まで。



十三仏～京田政春

居住体験施設が伝建に認定

金屋町元気プロジェクトではかねてよりポケットパークに面する旧夏野家を取得・改修し、居住体験施設として運営することを計画していますが、この春に購入契約を済ませています。

8月2日に開催された高岡市景観審議会にお

第3展示室では写真展

第3展示室において、アマチュア写真家 広野和雄さん（婦中町在住）の写真展「伝統を継ぐ」が開催されています。

これは伝統工法による鋳物製造現場の様子をおよそ20点の写真に収めたもので、主に金屋



町の今井合金製造所で撮影されたものです。

12月5日まで、入場無料です。

ルコルビジェが設計した西洋美術館が世界遺産に

この7月に、上野の国立西洋美術館を含むフランスの建築家ル・コルビジェの建築作品群17（7カ国に存在）が世界遺産に登録されました。西洋美術館は松方コレクションを常設展示していて、東京出張の際によく訪れたものです。私が初めてコルビジェの名前を知ったのは学生時代で、画家としてでした。実はコルビジェは建築だけでなく、油絵・彫刻・家具など広い分野で多くの作品を残しています。

2014年10月に金屋学講座として食をテーマに「里山のオーベルジュ・薪の音」代表 山本誠一さんに講演をしていただきましたが、その依頼の為に城端にある「薪の音」を訪問した際に、座ったソファがル・コルビジェの作品であったことを思い出します。

2007年に東京出張のついでに、六本木ヒルズ森タワー53階の森美術館で開催中のル・コルビジェ生誕120年記念展を見ましたが、建築分野でも個別の建築にとどまらず、およそ100年前に高層ビルを並べた壮大な都市計画図を描いていたことに感嘆したものです。



世界遺産になった今、北陸新幹線に乗って改めて訪問したいと思うところです。

市民公開シンポジウム 認知症の医療と介護

7月10日イオン高岡2階のイオンホールにおいて、首題のシンポジウムを聞いてきました。決して狭くない会場なのですが、立ち見が出るくらいに多くの人が集まったことに先ず驚きました。それほど多くの人々が家族の認知症に困っていて、関心があるということでしょう。

まず寸劇「家族が認知症になったら」が、医師会関係者らによって面白おかしく、そして理解しやすく演じられ、続いてミニレクチャー、シンポジウムと続きました。

認知症は脳の病気であり、高齢になると誰でもなる病気。65才以上の7人に1人、予備軍を合わせると4人に1人、高岡市には中等度以上の患者が6千人いるそうです。

家族が認知症になったら、先ずはかかりつけ医に相談し、地域包括支援センター（西条校下の場合は美幸町「やすらぎ」内にある）に相談することですね。

7月の金屋町自治会拡大会議要点

- ・金屋町防災計画について～市文化財課。
- ・50回記念西条校下住民運動会について～体育振興会
- ・福祉活動員の選出について
- ・弥栄節懇親会9月9日について～弥栄節保存会
- ・その他